学生の教職実践力を高める大学と教育委員会との連携について

―「教員養成・研修部会」の取組を中心として―

臼　井　公　仁

要　　旨

現在，大学と教育委員会がそれぞれ責任を果たしながらその連携・協働により，教員の養成，継続的な学習に対する支援を行うことが重要である。徳島県では，平成15年度より大学と教育委員会との間で，連絡協議会を開催し，連携を深めている。今後，この連絡協議会の取組が一層連携を深めて，教育の活性化を図る必要がある。

キーワード：連絡協議会，教員養成・研修部会，教員の資質向上連絡協議会

Ⅰ　はじめに

徳島県では，平成15年度より，県内の５大学（徳島大学・鳴門教育大学・徳島文理大・四国大学・放送大学徳島学習センター）と県教育委員会との間で，「連携に関する覚書」を交換した。これに基づき，従来，大学と各学校との間で個別に行われてきた連携活動を，県内の５大学と県教育委員会及び各学校との間でシステム化することにより，それぞれの教育機能の一層の活用を目指すことを目的として，県内５大学の学長及び所長と県教育委員会教育長で構成される「連絡協議会」を設置し，その下に３つの「専門部会」（大学・学校間連携部会，教員養成・研修部会，生涯学習ネットワーク部会）を設置している。

以上のような取組により，県内大学と県教育委員会が連携を図っている。

今後，更に連携を深めるために，今後の取組について国の答申及び現在各都道府県で行われていることを基にまとめ，今後考えられる連携及びあり方について触れてみたい。

＜組織と事業内容＞

連絡協議会（大学長・教育長）

大学・学校間連携部会	教員養成・研修部会	生涯学習ネットワーク部会
・専門部会開催（年間３回） ・出張講義一覧の作成 ・高大教育内容接続のための高大教職員による情報交換会 ・教育情報ネットワークを使用した連携事業 ・高校生対象公開講座（徳大） （担当：学校政策課）	・専門部会開催（年間３回） ・大学と連携した現職教員研修 ・教員の資質向上連絡協議会 ・教職キャリアアップ合同研修会 ・教育実践に関する共同研究会 （担当：学校経営支援課）	・専門部会開催（年間３回）（長期的展望に立った生涯学習システムの構築について協議） （担当：生涯学習課）

Ⅱ　教員養成・研修部会の概要

連絡協議会の中でも，教員養成・研修部会では，①教職キャリアアップ合同研修会の開催，②教員の資質向上連絡協議会により，学生の教職実践力を高めようとしている。

教職キャリアアップ合同研修会は，教員を志す学生が集い，現職教員や指導主事等による実践的な話を通して，教員になるための心構え等について理解を深め，今後の学生生活に生かしてもらうことを目的としている。この研修会には，毎年110人から120人の教員志望の学生が参加しており，昨年度で８回目を迎えた。昨年度の研修の主な内容（講師）は，①大学代表講話（県内５大学の学長と所長），②今，教育に求められること（県教委），③新学習指導要領について（県教委），④防災教育について（県教委），⑤校種別新任教員・指導主事との意見交換会（新任教員・指導主事）である。参加した学生からは，「有意義な時間を過ごした。特に意見交換会では，他大学の方の意見を聞き，驚いたり，疑問に思ったり，と様々な感情を抱き，これからの人生を考える素晴らしい機会となった。」等の意見・感想があった。

教員の資質向上連絡協議会については，テレビ会議で教員の養成・採用・免許状更新講習及び教育実習の実施に係わる諸問題について，大学，教育委員会，学校等の関係者が協議を行い，相互の連携，協力をより密接なものとし，教員の資質・能力の向上を図ることを目的としている。特に教育実習については，公立学校（幼・小・中・高・特）を対象に実態調査を行い，その教育実習実施状況を協議資料とし，大学と公立学校とが意見交換を図り，教育実習の改善に繋げている。

Ⅲ　教員養成・研修部会の成果と今後の課題

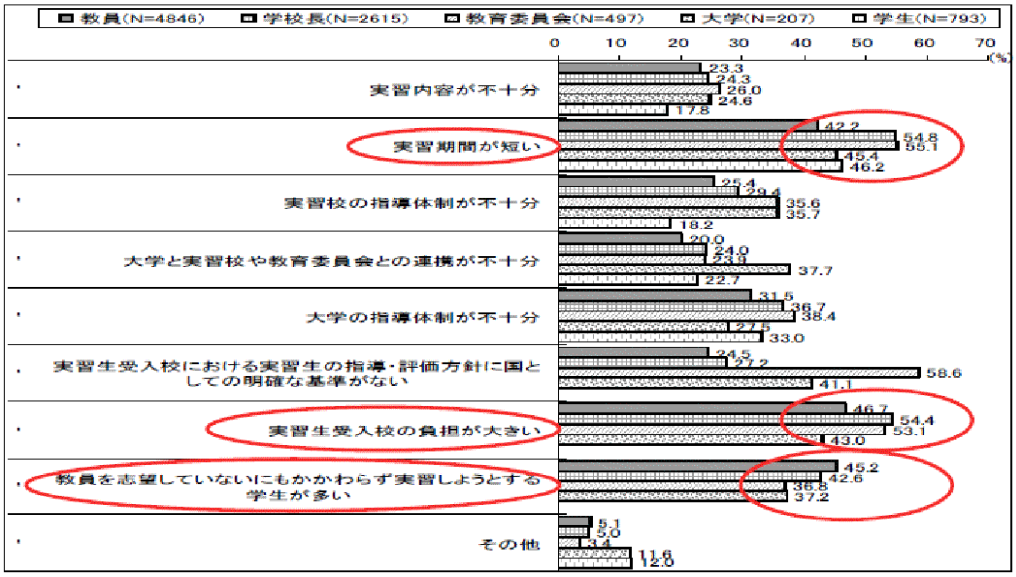
＊1

Ⅱ－25. 教育実習の課題

「教員の資質向上方策の見直し及び教員免許更新制の効果検証に係る調査集計結果」より

教育実習については、「実習期間が短い」「実習受入れ校の負担が大きい」「教員を志望していないにもかかわらず実習しようとする学生が多い」を課題として挙げる割合が全般的に高い。

＜教育実習について＞



1　教育実習について

平成24年度教育実習アンケートの実施

（１）アンケート実施日（平成25年２月）

（２）アンケート対象（徳島県内の公立学校）

幼稚園（142園）・小学校（188校）・中学校（86校）・高等学校（33校）・特別支援学校（９校）

（３）アンケート内容

①　校種別・地区別実習学生数　②　教科等別実習学生数　③　大学別・男女別等実習学生数

④　実習生を受け入れての感想・問題点（マナー等・実習生の所属する大学について）

（４）アンケート内容の結果

①校種別実習学生数

幼稚園　202名　　小学校　326名　　中学校　184名

高等学校　214名　　特別支援学校　6名

②年度別実習学生数

平成20年度　1,184名　　平成21年度　1,133名　　平成22年度　968名

平成23年度　932名　　平成24年度　912名

③実習生を受け入れての感想・問題点（マナー等）

幼稚園

・何事も自ら積極的に取り組み，子どもたちにも大変温かく接することができ感心した。

小学校

・実習生として心構えがよくできていた。

・礼儀正しく，学ぶ意欲も旺盛であった。大学の担当教官の指導もあってのことだと思う。

中学校

・個性は大切であるが，実習生であることを踏まえて，自己主張とともにまず耳を傾ける姿勢を持つことも大切である。

高等学校・特別支援学校

・非常に真面目に何事にも取り組み，マナーも良い。ただ，事前に教材研究や指導案を作成してくる実習生は少なく，実習が始まってから考えるものが多い。

④実習生を受け入れての感想・問題点（教育実習の事前指導・実習日誌等）

幼稚園

・大学によっては，実習期間を前もって決めているところもあるが，できましたら園側の都合も聞き調整して欲しい。

小学校

・学校は，生身の子どもを預かるところです。事前に実習の心構えをしっかり指導してほしい。

中学校

・評価授業の際は，担当教員が来校し指導に当たるなど，大学の誠意や熱意が伝わった。

高等学校・特別支援学校

・教育実習の事前指導を丁寧に行う大学が増加しており，充実した教育実習が行えている。

以上のような，教育実習実施状況を協議資料とし，教員の資質向上連絡協議会，教員養成・研修部会で教育実習の実施に係わる諸問題について，大学，教育委員会，学校等の関係者が協議を行い，相互の連携，協力をより密接なものとし，教育実習の改善に繋げていきたい。

2　大学における10年経験者研修等の教員研修の実施について

（１）平成２５年度　大学・研究機関等研修講座

No.	講座名	参加者	日時	大学等	講師		
					所属	職名	氏名
1	地形図の読み方と利用法	4	平成25年7月25日(木) 10:00～16:00	鳴門教育大学(1)	社会系コース	教授	立岡 裕士
2	子ども理解にもとづく生徒指導力・学級経営力の育成講座	14	平成25年7月30日(火) 10:00～16:00	鳴門教育大学(2)	学校・学級経営コース	教授	久我 直人
3	写真・撮影と映像講座	6	平成25年7月30日(火) 10:00～16:00	鳴門教育大学(3)	芸術系コース（美術）	准教授	内藤　隆
4	絵本とその読み聞かせで学力をつけ，いじめを防ぐ	13	平成25年8月1日(木) 10:00～16:00	鳴門教育大学(4)	言語系コース（国語）	教授	余郷 裕次
5	言語活動の充実に着目した音楽授業の工夫	1	平成25年8月1日(木) 10:00～16:00	鳴門教育大学(5)	芸術系コース（音楽）	教授	長島 真人
6	国語科教材研究の方法と実際	8	平成25年8月2日(金) 10:00～16:00	鳴門教育大学(6)	言語系コース（国語）	准教授	幾田 伸司
7	剣道＆「ソフト剣道」	1	平成25年8月2日(金) 10:00～16:00	鳴門教育大学(7)	生活・健康系コース（保健体育）	教授	木原 資裕
8	異文化理解	5	平成25年8月5日(月) 10:00～16:00	鳴門教育大学(8)	言語系コース（国語）	教授 准教授 准教授 准教授 准教授	小野由美子 眞野 美穂 田中 大輝 谷村 千絵 田村 和之
9	魅力ある家庭科の授業をめざして ～実験・実習を取り入れた授業の工夫～	3	平成25年8月5日(月) 10:00～16:00	鳴門教育大学(9)	生活・健康系コース（家庭）	准教授	速水多佳子
10	算数教科書の数学的背景	3	平成25年8月6日(火) 10:00～16:00	鳴門教育大学(10)	自然系コース（数学）	准教授	坂井 武司
11	昆虫学の基礎	3	平成25年8月20日(火) 10:00～16:00	鳴門教育大学(11)	自然系コース（理科）	准教授 助教	工藤 慎一 小汐 千春
12	ESD（持続発展教育）としての国際理解教育	5	平成25年8月20日(火) 10:00～16:00	鳴門教育大学(12)	国際教育コース	教授 教授 准教授 JICA	近森 憲助 小澤 大成 石坂 広樹 中川 朋子
13	徳島県の地質と自然災害	7	平成25年7月26日(金) 10:00～16:00	徳島大学総合科学部(1)	総合理数学科物質総合コース	教授 准教授	村田 明広 西山 賢一
14	「物語」から引き込む英語の世界 ～教室英語の面白さから自由な物語の世界へ～	8	平成25年8月7日(水) 10:00～16:00	徳島大学総合科学部(2)	人間文化学科国際文化コース	教授	宮崎 隆義
15	コンピュータを利用した数学教材づくり	4	平成25年8月6日(火) 10:00～16:00	徳島大学工学部	工学基礎教育センター	教授 助教	今井 仁司 坂口 秀雄
16	いじめ問題の心理学的理解と指導・援助	8	平成25年8月1日(木) 10:00～16:00	徳島文理大学(1)	人間生活学部心理学科	教授 教授	生島 博之 中津 達雄
17	幼児の心理と教育方法	10	平成25年8月22日(木) 10:00～16:00	徳島文理大学(2)	人間生活学部児童学科	名誉教授 教授	寒川伊佐男 三橋謙一郎
18	マーケティングの基礎とケーススタディ	1	平成25年7月22日(月) 10:00～16:00	四国大学(1)	経営情報学部経営情報学科	助教	西口 真也
19	楽しい書写・書道授業 ～教材への工夫～	2	平成25年8月7日(水) 10:00～16:00	四国大学(2)	文学部書道文化学科	教授	富久 和代

（２）概要について

１０年経験者研修受講者の人数

平成２４年度（１０１名）　　平成２５年度（１１３名）

（平成24年度）

大　学　名	連携講座開設数(参加者数)	10年経験者数	アンケート結果(満足度)
徳島大学	３講座　（延べ５名）	３名	大変良かった　（61．5%）
鳴門教育大学	12講座　（延べ63名）	50名	概ね良かった　（31．1%）
徳島文理大学	２講座　（延べ22名）	20名	あまり良くなかった（6．6%）
四国大学	２講座　（延べ８名）	５名	良くなかった　　（0．8%）
放送大学	全講座　（延べ０名）	０名	
合　計	19講座　※延べ98名が参加	78名	合計　　100%

（平成25年度）

大　学　名	連携講座開設数(参加者数)	10年経験者数	アンケート結果(満足度)
徳島大学	３講座　（延べ５名）	３名	大変良かった　（61．5%）
鳴門教育大学	12講座　（延べ63名）	50名	概ね良かった　（31．1%）
徳島文理大学	２講座　（延べ22名）	20名	あまり良くなかった（6．6%）
四国大学	２講座　（延べ８名）	５名	良くなかった　　（0．8%）
放送大学	全講座　（延べ０名）	０名	
合　計	19講座　※延べ98名が参加	78名	合計　　100%

10年経験者研修の大学研究機関等研修を県内の５大学と連携して設けている。平成24年度は，連携講座に，のべ101人の教員が参加，平成25年度は，徳島大学・鳴門教育大学・徳島文理大学・四国大学の連携講座を19講座開設している。放送大学も放送大学の全講座のうちから選択した講座も10年経験者研修受講者が研修する講座数としてあてることができる形で参加している。

各大学のもつ専門的な機能を生かした研修をとおして，質の高い研修を受けることができ，受講した教員の間でも好評であった。

３　平成２５年度教育実践に関する共同研究会の開催について

（１）目的

「１０年経験者研修」受講者から選ばれた教員２名とそれぞれを担当する大学教員が，夏季休業期間中を中心に２回以上の共同研究打合せ会をもち，１０年経験者全体に発表するシンポジウムを実施し，教育実践力を高めることを目的としている。

（２）テーマ及び共同研究者，総合司会

「魅力ある授業と子ども理解」

① 豊かに感じる心を培い，科学的な見方や考え方が育つ理科教育
－問題解決の過程のなかで子ども自らが「知を更新する」理科学習－
鳴門教育大学附属小学校　教諭　濱田　実
鳴門教育大学　教授　香西　武

② 図書館と連携した，校種・教科横断的な言語活動の実践について
徳島県立城ノ内高等学校　教諭　吉田　道雄
鳴門教育大学　教授　村井万里子

③ 総合司会
徳島大学　全学共通教育センター　副センター長　三好　徳和

（３）内容

教育実践に関する共同研究会は，10年経験者研修受講者から２名を選び，県内の大学から担当する大学をそれぞれ決め，夏季休業中を中心に２回以上の共同研究打ち合わせ会をもち，教育実践力を高めている。それぞれの教員は９月～11月に所属校で，研究授業を実施し，共同研究の成果を10年経験者全体に広げるために，平成25年４月３日（水）の「10年経験者研修」の開講式と平成25年12月26日（木）の「10年経験者研修」の閉講式の午前中に，その取組を共同研究者がシンポジウム形式で発表している。

平成25年４月３日（水）の「10年経験者研修」の開講式のアンケート結果は，大変良かった59.3％と概ね良かった40.7％の合計100％であった。

平成25年12月26日（木）の「10年経験者研修」の閉講式のアンケート結果は，満足・やや満足の合計97％であった。

（共同研究会）

（共同研究会）

4　免許状更新講習と10年経験者研修との関連について

＊１

【参考】免許更新講習導入後の十年経験者研修の実施状況

①十年経験者研修の工夫の状況

（教育委員会の数）

	幼稚園［６５］	小学校［１０４］	中学校［１０４］	高等学校［６７］	中等教育学校［１４］	特別支援学校［１４］
校外研修の日数の削減	３５	９５	９５	６１	１４	５９
研修内容の精選	１７	４１	４１	２９	６	２５
更新講習を受けた者に対する十年研修の一部免除	1	3	3	2	0	2
十年研修に更新講習の全部又は一部を組み入れ	3	7	7	7	1	5

［ ］内は十年経験者研修を実施している教育委員会の数

②校外研修の日数削減の状況（平均日数）

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
更新講習導入前の校外研修の日数（20年度）	１０．１日	１６．８日	１６．８日	１６．９日	１６．４日	１６．６日
更新講習導入後の校外研修の日数（22年度）	６．６日	１２．４日	１２．４日	１２．３日	１２．１日	１２．１日
校外研修の削減日数	３．５日	４．４日	４．４日	４．６日	４．３日	４．５日

（平成２３年度文部科学省　教職員課調べ）

（１）免許状更新講習と10年経験者研修との関連について，平成23・24年度の教員養成・研修部会において議案として検討されてきた。

また，教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）では，10年経験者研修等の法定研修をはじめ任命権者等が行う様々な研修については，教員免許制度等の関係も考慮しつつ，各教員が教職生活の全体を通じて資質能力の向上を図っていくことを支援するという観点に立って，それらの在り方についてご審議をお願いしますとの答申が出されている。

徳島県においては，これまでにも校外研修の日数を削減する等の負担軽減を行ってきたが，更に教員免許状更新講習との関連について見直しを図った。

（２）10年経験者研修の見直し及び教員免許状更新講習との関連について

①　目的

児童生徒と向き合う時間を確保するために，10年経験者研修の研修日数等について見直し，受講者の負担軽減を行う。

また，10年経験者研修と教員免許状更新講習が重なる場合，受講者の負担が更に大きくなるため，10年経験者研修と教員免許状更新講習が重なる受講者に対して負担軽減を行う。

②　研修内容の見直し及び軽減措置

ア　10年経験者研修における休業期間中研修の見直し

（ア）　小・中・高・特別支援学校の教諭

現行の12日間から２日間を減じ，10日間とする。削減する研修は，模擬授業研修２日間のうちの１日間とＩＣＴ研修の１日間とする。

（イ）　幼稚園教諭，養護教諭及び栄養教諭・学校栄養教諭

現行どおりとする。

イ　10年経験者と教員免許状更新講習が重なる受講者の軽減措置について

（ア）　同一年度において，10年経験者研修と教員免許状講習が重なる受講者に対して，教員

免許状更新講習で履修した講座を，10年経験者研修の休業期間中研修として認定する。

県外の大学等で履修した教員免許状更新講習の講座も認める。

教員免許状更新講習の受講期間は２年間であるが，10年経験者研修と重なった年度に履修した講座のみ認定する。

教員免許状更新講習の１日分を，10年経験者研修の休業期間中研修の１日分に充てる。

（イ）　認定する講座日数

a　小・中・高・特別支援学校の教諭

教員免許状更新講習で履修した必修・選択領域の講座のうち最大２日分（12時間）を，１０年経験者研修の２日分として認定する。

b　幼稚園教諭

教員免許状更新講習で履修した必修・選択領域の講座のうち１日分（６時間）を，10年経験者研修の選択研修（１日間）として認める。

c　養護教諭及び栄養教諭

免許状更新講習で履修した選択領域の講座のうち，生徒指導に関する講座を１日分（６時間）履修した場合に，10年経験者研修の生徒指導等研修（１日間）として認める。

d　受講に際しての勤務区分は，「職専免」とする。

e　平成25年度中に各校へ周知し，平成26年度より実施する。

５　教職キャリアアップ合同研修会の開催について

（１）目的

教員を志す学生が集い，現職教員や指導主事等による実践的な話を通して，教員になるための心構え等について理解を深め，今後の学生生活に生かしてもらうことを目的とする。

（２）対象

教員を志望している大学生等

（３）研修内容・講師

大学代表講話（大学の学長）・今，教育に求められること（教職員課統括管理主事）・
いじめについて（県立総合教育センター班長）・防災教育について（体育学校安全課班長）
新任教員・指導主事との意見交換（新任教員・指導主事）

（４）①大学代表講話

左の写真は，「教職キャリアアップ合同研修会」の大学学長による大学代表講話の様子である。大学代表講話は，県内大学の学長に依頼し，毎年交代で実施することとしている。大学代表講話における学生の感想には，「教育に携わる事はとても難しいことだと改めてその重みを感じた。今後，自分が教育者として必要な能力を身につけて教育に貢献したいと感じた。」等の感想がみられた。

②新任教員・指導主事との意見交換会

（幼稚園部会）

左の写真は，新任教員・指導主事との意見交換会（幼稚園部会）の様子である。現在，新任教員・指導主事との意見交換会は，幼稚園部会・小学校２部会・中学校部会・高等学校部会・特別支援学校部会・養護教諭部会・栄養教諭部会の８部会を設置している。学生の意見には，「新任の先生方のライフスタイルや職場での経験など，教員として働くとはどういうことか聞くことができ，将来の参考になった。」等の意見があった。

（５）教職キャリアアップ合同研修会全体をとおしての感想

・講義・意見交換会と，貴重な機会で，大変勉強になった。
・知識を深めたり，改めて考え直し，有意義で興味深い時間を過ごすことができた。
・実際に現場で働き始めた新任教員の話を聞き，貴重な時間を過ごせた。
・校種別に行われた意見交換会では，「自分は教師に向いているか」との不安が和らいだ。これからたくさん経験を積み，教師になれるよう頑張りたいとの感想があった。

６　教員の資質向上連絡協議会

（１）協議内容

免許状更新講習，教育実習，教員採用状況，研修等について意見交換

（２）参加者

教員養成・研修部会委員，幼稚園長会長，小学校長会長，中学校長会長，高等学校長会長

（テレビ会議）

左の写真は，教員の資質向上連絡協議会をテレビ会議で開催している様子である。免許状更新講習等について各校種の園長会，校長会の会長を交えて意見交換を行った。

教育実習の時期や現在の徳島県の教員採用についてご意見を頂いた。

Ⅳ　おわりに

教育委員会，大学等の関係機関の連携・協働について，教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）において，これまでの取組を実効あるものとするためには，教育委員会，大学等の関係機関がそれぞれ責任を果たしながらその連携・協働により，教員の養成，継続的な学習に対する支援を行うことが重要であるとされている。

徳島県内の大学と徳島県教育委員会との連携に関する連絡協議会は，現在大学関係者の御理解・御協力を得て，各専門部会での取組が定着し，着実に成果をあげている。大学側と公立学校側・教育委員会関係者が，目的や意義などをしっかりと共有して取り組んでいる結果であると考えられる。

また，様々な課題に対して，大学側，公立学校側そして教育委員会関係者が率直に意見を交換する中で，お互い状況や考え等が理解でき，良い人間関係が構築されている。そして，さらに内容の濃い協議がなされている。

今後とも，事業内容等の改善に努め，より充実した連携事業になるように，全力で取り組んでいきたい。

＊１　中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」参考資料１「教員の資質能力の総合的な向上方策に関する参考資料」，平成24年8月28日